

# ばらんす

■編集発行 大田原市企画部企画政策課 男女共同参画係 〒324-8641 大田原市本町1丁目4番1号 ☎0287-23-8701 FAX0287-23-8748

## 新生大田原市合併記念号

### みなさんこんにちは

大田原市では、女性行政広報誌『ばらんす』を年2回(11月15日・3月15日)発行しています。平成8年6月「おおたわら女性プラン」策定に伴い、11月に創刊してから今回で19号になります。

本年10月1日より新しい大田原市も誕生し、これからも市民の皆さまに親しんで可愛がってもらえる『ばらんす』を目指しますので、どうぞよろしくお願いたします。

#### 『ばらんす』の名の由来



男性、女性また子供から高齢者、すべて人間としての重みは皆同じです。

また、すべての男女一人ひとりが、より自分らしく生きられる社会を創り上げていきたいと願っています。

とくに、人間社会では人間関係や仕事との「バランス」は大切なことです。

この、「バランス」のとれた社会を目指し、これからの「素敵に、輝かしく生きたい」ということを願い『ばらんす』と名付けました。  
(創刊号より抜粋)

#### 大田原市女性行政のあゆみ

1998年4月	社会教育課の分掌に「婦人行政」を明記
1991年4月	社会教育課を「生涯学習課」に改称、「婦人行政」を「女性行政」に改める
1994年5月	大田原市女性団体連絡協議会
1995年4月	生涯学習課内に女性行政専任「女性企画担当」設置
1996年6月	女性問題懇話会設置、女性問題庁内研究会設置
1996年6月	大田原市女性行動計画「おおたわら女性プラン」策定 (平成8年〜17)
2000年5月	大田原市女性行政庁内連絡会議設置
2000年5月	プラン見直しにともなう意識調査実施
2002年3月	「おおたわら男女共同参画プラン」策定 (平成13年〜17)
2004年10月	大田原市男女共同参画社会を推進する条例施行
2005年10月	大田原市・湯津上村・黒羽町合併により「女性企画担当」が「企画部企画政策課男女共同参画係」へ移管

■編集発行元が「生涯学習課女性企画担当」から、「企画部企画政策課男女共同参画係」へ変わりました。

◎ばらんす編集委員募集◎

連絡先: 大田原市企画政策課 男女共同参画係  
TEL.0287-23-8701

年齢・性別を問いません  
お待ちしております

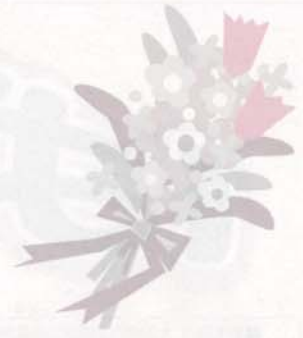


# 大田原の女性たち

## 大田原市女性の海外研修

平成17年10月12日(水)～10月21日(金)

## フランス・スペイン訪問



ーについて

2年のパラ  
害者・高齢  
自由にでき  
リアフリー  
す。  
道の確保を  
でした。



### 10月13日 マドリッド市 ゴミ処理場見学

夜間、無選別回収されたゴミは、市が振り分けた2件の処理場へ運ばれ、各施設はおのおの別の方法でリサイクルし、肥料、水分、エネルギーすべてを利用し利益をあげています。  
灰や残滓は埋め立てられ、木を植えるが日本のように宅地にするのではないという。スペインは広大な土地でした。



### ジェラルール/ヴァンサント

ご夫妻は、日本がとてもお好きなようで、部屋中に日本人形、羽子板など日本の装飾品が置かれていました。言葉の壁はありましたが、日本を愛して下さるご夫妻に親しみを感じ、改めて日本の素晴らしさを教えて頂いた思いです。

高橋美恵子/益子 徳子



### モニカシェリー

マダムモニカは家族と離れ、アパートマンで一人暮らしをしている絵描きさんです。彼女は3度も来日していて日本が好きなのでアルバムや私達のおみやげの話でも盛り上がり、楽しいひとときを過ごしました。

薄井 恵子/高橋 真紀

### シャーリー/アニー

カヴァイヨン市内より車で約30分。二人暮らしのご夫妻宅へホームステイ。明るい家庭で、家の中は、素敵な雑貨・家具でコーディネートされ、言葉はお互い辞書でやり取りし、楽しい時間を過ごせました。別れる際、ハグをし、心に残るよい思い出となりました。

高橋まり子/金子 芳江



### 10月16日～18日 場所 カヴァイヨン市内

### クリスチオン・ケディング/マリーロール・アフモン

ご夫婦そろって小学校の先生をされています。目を開け一歩家の中に入ると日本の家庭とは一変し、楽しみながら生活している様子がわかります。ゆっくりと時間が流れ、くつろげる場所。理想的な家庭そのものです。御夫妻の人柄に助けられ言葉のกำแพงも不安も自然と消えていました。有意義なホームステイを体験してきました。

瀧川 秀子/田代いつ子



### セルジュ/ジョアンヌ

ムツシュ セルジュは高校教員、マダム ジョアンヌは市議会議員というお忙しいお二人です。フランスそのものの素敵なリビングに、おとぎの国のような寝室で、優雅にゆっくり、休ませていただきました。思いがけない留守番をさせられたりと、ハプニング続きでした。フランスに行ったのに英語で会話…もっとフランス語を勉強して行けばコミュニケーションが図ることができたのにと、後悔するばかりです。

中川 文子/村上 和子





# 海外にはばたく大

## 栃木県女性の海外研修

平成17年10月2日(日)～10月11日(火)  
フランス・ノルウェー訪問



栃木県 女性の海外研修に参加して。  
益子 久江



10月2日から10日間、ノルウェー・フランスを訪問する機会を戴きました。この研修は、「男女が互いに尊重し合い、よりよいパートナーシップのもとに社会を築いて行くには、その為に私たちに何ができるのか」

を探る研修でした。

ノルウェーでは、自国の自然の美しさを愛してやまない人々に接し、「私は自分の住んでいる地に対して、彼らほどの愛情をもっているだろうか？」と自問自答し続けました。また、「福祉国家」と言われるノルウェーの老人福祉施設では、実際に入所者に使用される便器・尿器の加温機械を見、その暖かさを手で触れた時、“真の福祉とは何か”を痛感させられました。

数々の体験を風化させることなく、更に学び続け、今後に生かしていきたいと心に誓っています。

10月19日  
国際女性委員会

フランスでの週の労働時間は35時間と決められています。両親共に働いていることが多く、特に働く母親は85.4%にも達しています。フランスでは学校の校門をでたら、すべて親の責任で、9才～10才頃まで登下校の送迎は親の義務とされています。

子育て中の女性の仕事は、ほとんどがパートタイマーとなっていますが、資格をもっている人、いない人とは収入や職種もまったく違ってきてしまいます。



10月15日  
バルセロナ市バリアフリー

現在、バルセロナ市は、1992年オリンピック開催後、身体障害者が市内でのアクセスを向上させるよう、建築的障害物をバリアフリーにする計画を実行しています。中でも市内は、車道より歩道に優先していることが印象的



大田原市 女性海外研修に参加したその後 齋藤 厚子

一年前の海外研修を思い出すたび、本当にあの時行って来て良かったと、微笑みながら思うのです。十人が力を合わせて、同じ目標の研修を乗り越えて来た充実感が、思い出の宝物となっています。



海外研修に参加した人たちは、大田原市女性団体連絡協議会の「ウィング」に所属します。ここでは会員相互の研鑽と融和をはかり各種情報の提供をしたり、研究会を年二回実施したりと、たくさん勉強をしています。共通体験がもたらすせいかとても和やかで、私も楽しんで参加させていただいています。

この、人との出会いがすばらしく楽しく思えてなりません。一緒に行った十名の巡り合わせは勿論、前回前々回の方々とも同じグループになれて、そして今年の仲間も加わると四十名に。だんだん和が広がって行きます。海外研修参加による多くの出会いが、私にたくさんの刺激を与え、知識を増やしてくれます。

今まで自分のため子供のため家族のためという狭い視点から、最近は「人のために奉仕する」と広い世界に目を向けることを意識しています。人に喜ばれること、人の役に立つこと、私の出来る範囲で頑張りたいと思います。

ホームステイ期間/10月



御門 愛ま理 けい



## 日本ユニセフ協会を見学研修して

大田原市女性団体連絡協議会会員16名は、去る8月31日、日本ユニセフ協会(港区高輪)を見学研修してきました。

研修の目的は「世界の子どもの現状を具体的に知ることにより、女の子や女性が男性と平等の権利を得られるようにするための方策を考える」ためです。

担当者から発展途上国の子どもや女性の生活の現状についてVTRや展示物などの説明を聞き、ジェンダー格差の大きさに愕然としました。学校に行けない子どもは1億2100万人(うち6500万人が女子)。女子教育が阻害されることの影響として

①性的搾取、人身売買、HIV(エイズ)などの危険が高まる

②子どもを健康に育てるための知識やスキルを習得できない(次世代への負の継承)



③のちの社会への参加、貢献を阻害する  
ジェンダー格差は人類の生命、生活に大きな悪影響を及ぼすことを切実に感じるとともに、身近な問題を具体的に解決し活動していく必要性を強く感じた研修でした。

(神立)

## なでしこ祭で男女共同参画を推進する条例の啓発活動!!

このほど施行された「大田原市男女共同参画を推進する条例」を理解してもらうために大田原女子高等学校文化祭(なでしこ祭)で「女性の過去・現在・未来」というテーマで男女平等に関する資料を展示し、これについて考えるコーナーを設けました。

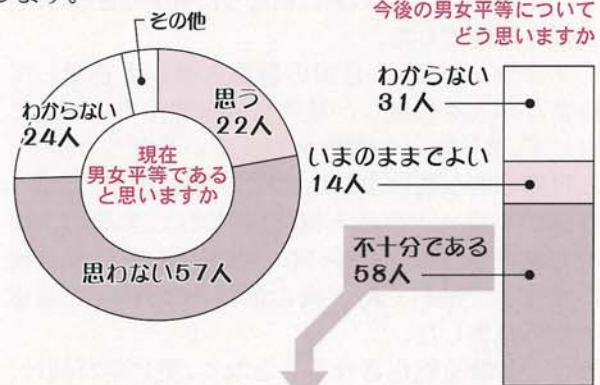
パソコンで詳しい内容を検索



アンケートに答える若い男性たち



そのとき実施したアンケートの中から、一部を紹介します。



■ どうしたら平等になるとお思いますか

法律整備……………38人 家族で話し合う…25人  
授業でとりあげる…21人

(大久保)

## 編集後記

10月7~8日福井市で日本女性会議が開催されました。市内から4人が参加。「男女共同参画を目指す」熱気にふれる一方で、2500人の参加者のうち男性は約30人ぐらいだったそうです。

大田原市第22回のつどいは、男性の参加を呼びかけ、テーマ「しっかり生きる 家族・子育て・仕事」について、ともに考えたいと思います。

皆さまのご参加をお待ちしています。

(栗原)

\*編集委員(アイウエオ順)

大久保愛子 神立道子 栗原敏子 住吉すみ子

## 第22回男女共同参画社会を考えるつどい

### 『しっかり生きる 家族・子育て・仕事』

●日 時 平成18年1月21日(土)  
午後1時から

●会 場 大田原市総合文化会館ホール

- ① 第4回大田原市女性の海外研修報告
- ② 講演『家族が大好き! みんなで楽しい奮闘!』

講師/デビッド・ソベティ先生

スイス生まれ、ジュネーブ大学で日本語を、同志社大学で国文学を学ぶ。テレビ朝日に初めての外国籍社員として入社、男性社員として初めての育児休暇をとる。1998年から執筆に専念。航空客室乗務員の妻とともに育児、家事、介護も行いながら、優れた作品を数多く上梓。

